

高1国語

オンライン授業の実施について

受講生の皆様

いつもお世話になっております。さて、4月17日よりKOMABAでのオンライン授業が始まりました。多くの方にとってオンラインでの受講は初めての形式であり、学習に関して手探りの部分もあるかと思いますが、KOMABAではできる限り、皆さんの自宅学習のサポートをしていければと思います。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

担当山谷

なお、オンラインでの授業実施にあたり、「高1国語」では講義形式でノートを取りながらの授業を行う予定でございます。そのため、授業前には以下のご準備をお願いいたします。また、今回は添付の通りの教材を使用しますが、印刷は必須ではございません。授業内に、ZOOMの画面以外でお手元に教材が見える状態にしていただければと思います。

【授業で使用するもの】

筆記用具、ノート等、添付のPDFを手元でみられる状態にしておくこと

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、忠明といふ検非違使 **X** ありけり。若男にてありける時、清水の橋殿にして、京童部といさかひを **Y** しけり。京童部、刀を抜きて忠明を立てこめて **1** 殺さむとしければ、忠明も刀を抜きて、**i** 御堂の方ざまに逃ぐるに、御堂の東の端に、京童部あまた立ちて向かひければ、その傍に **a** え逃げずして、葎のものありけるを取りて、脇に挟みて、前の谷に踊り落つるに、葎のもとに風しぶかれて、谷底に **2** 鳥のゐるやうに、**ii** やうやく落ち入りにければ、そこより逃げて **Z** いにけり。京童部、谷を見下ろして、**b** あさましがりてなむ立ち並みて見ける。

忠明、京童部の刀を抜きて立ち向かひける時、御堂の方に向きて、「**iii** 観音、助け **iv** 給へ。」と申しければ、ひとへに **3** これそのゆゑなりとなむ思ひける。

忠明が語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたとや。

問一 波線部 **i** 「御堂」・**ii** 「やうやく」・**iii** 「観音」・**iv** 「給へ」の読み方を、現代仮名遣いで答えよ。

問二 点線部 **a** 「え逃げず」・**b** 「あさましがり」の意味を答えよ。

問三 傍線部 **X** 「あり」・**Y** 「し」・**Z** 「いに」の活用の仕方について、解答欄の活用表にそれぞれひらがなで活用語尾を補つて答えよ。

問四 傍線部 1 「殺さむとしければ」・2 「鳥のゐるやうに」の現代語訳として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

2 「鳥のゐるやうに」

文 鳥が飛び立つように

イ 鳥の羽のように

ウ　鳥がとまるように

エ 鳥の巣のように

才鳥が鳴くように

問五 傍線部 3 「これそのゆゑなりとなむ思ひける」について次の各問いに答えよ。

① この文を構成する付属語はいくつか、数字で答えよ。ただし「その」は代名詞「そ」＋助詞「の」とする。

② この文で使われている動詞は一つであるが、その動詞の活用形を漢字で答えよ。

③ 指示語の内容を明らかにして、六〇字以内で現代語訳せよ。

〈下書き用〉

[illegible]

二

問一 次の①・②の漢文を書き下し文にして答えよ。

① 過^{チテ}而^レ不^ル改^メ、是^ヲ謂^フ過^{チト}矣。

② 惡^ム_下称^ス_ニ人^ノ之^ヲ惡^ム_一者^ヲ_上。

問二 後の書き下し文になるように、解答欄の白文に訓点（送り仮名と返り点）をつけよ。

他^レ山^ノ之^ヲ石^ヲ、可^シ以^テ攻^ム玉^ヲ。

（他山の石、以つて玉を攻くべし。）

三 次の1〜5の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

1 人に物思ふ気色を見えむを、恥づかしきものにし給ひて、

ア 会う イ 結婚する ウ 心変わりする エ 涙を流す オ 見られる

2 かうあやしき垣根になむ咲きはべりける。

ア 粗末な イ 風情のある ウ 頼りにならない エ 目立たない オ かわいらしい

3 かく夢見つるは、これ何のしるしにかあらむ。

ア 手紙 イ 支度 ウ 愛情 エ 風情 オ 前兆

4 おのづからことのたよりに都を聞けば、

ア 自然 イ 偶然 ウ 全然 エ 依然 オ 毅然

5 薬も食はず。やがて起きもあがらで、病み臥せり。

ア そのまま イ 次第に ウ かえって エ 非常に オ 恐れ多くも

〔四〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、人のもとに宮づかへしてある (注1) 生侍 なまざむらひ ありけり。することのなきままに、清水へ人まねして、 (注2) 千度詣 せんどうで を二度したりけり。

その後、いくばくもなくして、主のもとにありける同じ様なる侍と双六を打ちけるが、おほく 1 負けて、渡すべき物なかりけるに、 a いたく責めければ、思ひわびで「われ、持ちたる物なし。ただ今たくはへたる物とは、清水に二千度参りたる事のみなむある。それを渡さむ」といひければ、かたはらにて聞く人は、謀るなりと、 (注3) をこに思ひて笑ひけるを、この勝ちたる侍、「いとよき事なり。渡さば得む」といひて、「いな、かくては受け取らじ。三日して、このよし 2 申して、おのれ渡すよしの文書きて 3 渡さばこそ、受け取らめ」と言ひければ、「よき事なり」と契りて、その日より (注4) 精進して三日といひける日「いざ清水へ」と言ひければ、この負け侍、「をこの (注5) しれ者に会ひたる」と、をかくし思ひて、よろこびて連れて参りにけり。言ふままに文書きて、仏前にて師の僧呼びて、事のよし申させて、「二千度参りつる事、某に双六に打ち入れつ」と i 書きてとらせければ、受け取りつつ、よろこびて伏し拝みて ii まかり出にけり。

その後、いく程なくして、この負け侍、思ひかけぬことにて捕へられて、獄に 4 居にけり。取りたる侍は、思ひかけぬ b たよりある妻まうけて、いとよく徳つきて、司などなりて、楽しくてぞありける。「目に見えぬ物なれど、誠の心をいたして受け取りければ、仏、あはれと思し召したりけるなめり」とぞ、人は言ひける。

〔注〕 1 生侍——若くて官位の低い侍。

2 千度詣——寺社に千回参詣すること。

3 をこに——をこなり。愚かである。

4 精進し——身を清めること。

5 しれ者——痴れ者。ばか者、愚か者。

問一 波線部 i 「書き」・ii 「まかり出」の主語（動作主）として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。ただし、同じものを何度選択してもよい。

ア 主 イ かたはらにて聞く人 ウ 勝ちたる侍 エ 負け侍 オ 師の僧

問二 点線部 a 「いたく責めければ」・b 「たよりある妻」の解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

a 「いたく責めければ」

b 「たよりある妻」

ア 「勝ちたる侍」が強く負け分の払いを要求するので	ア 長年交際していた妻
イ 「勝ちたる侍」が非常に怒っていたのであれば	イ 心優しく情の深い妻
ウ 「負け侍」がとても困ってしまったところ	ウ 美しく才能のある妻
エ 「負け侍」が良心の呵責に耐えられなくなったので	エ 頼りになる家柄の妻
オ 「負け侍」が借金を返済できなかったのならば	オ 家を任せるに足る妻

問三 傍線部 3 「渡さ」の活用形を漢字で答えよ。

問四 傍線部 1 「負け」・2 「申し」・4 「居」の活用の種類をそれぞれ答えよ。

問五 二重線部「誠の心」とは、どのような心のことか。十五字以内で答えよ。